



真葛原(まぐはら) 靡(なび)く秋風 吹くごとに 阿太の大野の 萩の花散る

巻10-2096 柿本 人麻呂

広大な秋の野一面に生い茂る葛と萩。秋風が吹くたびに靡く葛の葉はまるで白波が立っているようです。そして波に流されてゆくようにほろほろと散る萩の花。



今一度、あいさつの大切さを！

10月に入りようやく暑さも和らぎ、朝夕は幾分か涼しくなってきました。また、夕刻には、家々の庭や草むらから、耳に快いコロコロリー、コロコロリーとエンマコオロギやチンチロリンとマツムシなどの秋に鳴く虫の声が聞こえてきて、秋を感じる季節になってきました。

10月は学校・園において、運動会・体育大会が行われる月ですが、町立の幼稚園・こども園は、5日(土)に秋晴れの下、それぞれの園で元気いっぱいのかけっこや演技を見せてくれました。小学校は、5年ぶりに開催日が統一され26日(土)に、中学校は23日(水)に開催されます。このたよりを読まれている方でお時間がありましたら、近くの学校で、子どもたちの一挙手一投足の演技に声援を送っていただければありがたいです。



ところで、これまでもあいさつの大切さをこのたよりに事あるごとに書いてきましたが、今一度、あいさつの大切さを考えてもらえればと思います。

先日、ある小学校で初任者の先生の授業参観があり、訪問したときに、出会った子どもたちの中で、元気よく「こんにちは」とあいさつしてくれる子と全く知らんぷりであいさつをしてくれない子がいました。また、私が日課にしている夜のウォーキングで出会った親子の子どもさんから元気な声で「こんばんは」と声をかけられ、びっくりしてこちらから「こんばんは」と返しました。見ず知らずの子からあいさつされ、とても良い気分になったと同時に、きっとこの子の家庭では普段の生活の中に自然とあいさつが当たり前のようにされているのだろうと想いをはせていました。このようなあいさつができる子とできない子はどのような違いがあるのでしょうか。

一般的に見て、家庭でのあいさつはどうでしょうか。朝起きた後、家族で最初に交わす言葉が「おはよう」、家を出るときは「行きます」「行ってらっしゃい」、帰宅したときは「ただいま」「おかえり」、寝るときは「おやすみ」と、ご家庭でかけるあいさつが習慣化されているようなら、当然その延長で家庭外での人と人のあいさつが気軽に交わされると思います。



あいさつは「相手の心の扉を開く鍵」「言われて返すのは簡単だけど、自分から言うことが大事」「あいさつをすることで気持ちよくなる、元気になる」「笑顔になる機会が増える」「会話のきっかけになる」「緊張がほぐれる」などの効果があります。

特に「あいさつ」の最大の効用は、相手の存在を認めていることを強力に表せることだと思います。「私はあなたがそこにい

ることを知っているよ」「気がついていてよ」「いつも気にしているよ」と。「あいさつ」というのは、それを手軽に相手に伝えられるすごい武器だと思います。

また、自分から人にあいさつをすることは、相手を尊重し大切にしていることになりますし、人を大切にしている自分自身も素晴らしい存在であると思います。相手から反応があってもなくても、あいさつをすることで相手の気分を良くしたり、周りの雰囲気を変えていくきっかけを作っていると思います。

道徳の教科書では、おもいやり・感謝・公正・公平・社会正義、生命の尊さなど、教えるべき22の内容項目に礼儀があり、小学5年と中学2年で、その礼儀の一つとして、あいさつの大切さが扱われています。ある中学2年の教科書には「あいさつは言葉のスキンシップ」という物語が掲載されていて、職場体験学習でお世話になった美容院での店長さんとのやりとりの中であいさつの大切さが書かれています。

「あいさつって、言葉のスキンシップだと思うんだ。マニュアルどおりに笑顔であいさつしても、お客様にはすぐにわかってしまうんだ。だから、僕は自分の考え方とあいさつを変えていったんだよ。……。」



この物語では、あいさつの意味とともに心のこもったあいさつをすることで人とのつながりがより良くなることを示唆しています。

とにかく、あいさつをすることで、「気持ちいい」と感じる機会ができるし、自然と笑顔を増やし、人間関係も良くなります。また、人と会話する機会も増えるように思います。どうか、今一度あいさつの大切さを心に留めて、子どもたちをはじめ、すべての人が自分から積極的にあいさつをする人になってもらえればと思います。

詩のコーナー

影と海

谷川 俊太郎

私がだれかを傷つけるとき
苦しむのは私
あなたがだれかを苦しめるとき
傷つくのはそのあなた

苦しみも傷もついてくる
影のようにどこまでも

私がだれかを喜ばすとき
幸せなのはこの私
あなたがだれかを幸せにするとき
喜ぶのはそのあなた

幸せと喜びは歌っている
海のようにいつまでも



教育委員会の取組

子ども将棋大会を開催しました！

9月29日(日)に、第15回広陵町子ども将棋大会を中央公民館大会議室で開催しました。当初、9月1日(日)に実施する予定でしたが、あいにく迷走した台風10号の影響で延期しての開催となりました。そのためか、この日は、上級者の部が5名、初心者の部も5名の参加となり、どちらの部もリーグ戦方式で行われました。

この将棋大会には、大会運営に協力していただく広陵将棋会の皆さんが多数参加して、お手伝いをしていただきました。また、大会全体を指導していただく講師に、日本将棋連盟の女流棋士の村田智穂三段にも来ていただきました。



対戦が始まると、上級者の部は真剣そのもので、互いに相手の一手一手を先読みしながら、駒の取り合いに一喜一憂するとともに比較的早い時間で勝敗が決まっていました。初級者の部では、将棋会の皆さんにアドバイスをもらいながらも、沈黙思考の態度でじっくりと時間をかけた上で、一局一局対戦するごとに上達して将棋の楽しさを満喫していました。また、対戦を待っている時間の子どもたちは、村田三段から対戦形式で駒の差し方や相手の手の読み方等を懇切丁寧に教えてもらっていました。すべての対戦が終わった後、表彰式があり上級者の部は、上位3名が村田三段から表彰してもらい、初級者の部は、健闘した3名が山村町長から表彰を受けました。この大会の中で、第2、第3の藤井聡太竜王・名人のような棋士が育ってほしいと思いました。



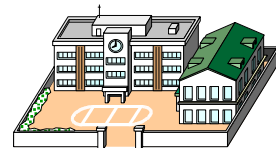
平尾だんじりの修理お披露目式がありました！

9月22日(日)午前10時から大字平尾にある天照皇第神社でだんじりの修理お披露目式(正式名には改修修祓式・入魂式と言います。)がありました。平尾区の区長さんはじめ、区役員、自警団、青年団、区住民の皆さんが参加され、修理とは思えない屋根から車輪まですべてが新品に見えるきれいなだんじりに歓声があがっていました。広陵町では、広陵町の各大字の秋祭りに曳航されるだんじりの修理等の補助金を、文化庁の地域文化財総合活用推進事業の地域文化遺産活性化の補助金としていただいています。これまで、赤部、萱野、疋相、弁財天、安部、大塚のだんじりの修繕がなされ、平尾のだんじりで7つ目となりました。



10月12日(土)16時には、平尾・疋相・大垣内・笠の4か大字のだんじりが、時計台公園(ピエロ公園)に集まり、餅まきも

行われるそうです。もし時間があるようでしたら、一度その勇姿を見に行かれてもいいかなと思います。



学校の様子

広陵東小学校

広島への修学旅行

広陵東小学校は10月6日、7日に広島方面への修学旅行を行いました。

平和記念公園では、原爆の子の像の前で黙祷をし、全校児童で折った千羽鶴を捧げました。また、平和宣言をしたり、折り鶴という歌を歌ったりして平和への誓いを新たにしました。

その後、フィールドワークで公園内の石碑を巡り、資料館を見学して学習を深めました。



広陵西小学校

令和6年度 修学旅行

10月2日(水)、3日(木)に広島方面への修学旅行を行いました。

1日目は生憎の雨でしたが、路面電車に乗って平和記念公園到着後、原爆の子の像の前での平和セレモニー、平和記念資料館の見学、公園内のフィールドワークと学習を行いました。写真はセレモニーで折り鶴を捧げるところです。



真美ヶ丘第二小学校

地域の方々が運動場の草引きを！

9月7日(土)に今年もまた、真美二小校区の方の呼びかけで、真美ヶ丘第二小学校運動場の草引きが行われました。

昨年に、自治会長さんから「子どもたちがきれいな運動場で運動会を実施できるよう、地域で運動場の草引きに協力したい。」と提案され、夏休み明けのこの時期に実施されました。今年は、附属幼稚園の園庭の草引きも同時に行われました。まだまだ残暑が厳しい中、幼稚園や小学校の保護者の方々や子どもたち、各自治会の地域の人など、約160人に参加していただきました。

校長先生や園長先生からは「学校や園は、保護者の方をはじめ地域の方に、大事に支えられ見守られていることに感謝しています。」というコメントがありました。

